

# 第1回ほこみち長崎未来ワークショップを開催しました

国道34号長崎市桜町～万才町の区間（約749m）が歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）に指定されたことを踏まえ、国道34号周辺（岬のエリア）の活用方法について、地域の皆様と共に考えていくための、「第1回ほこみち長崎未来ワークショップ」を開催しました。

【日 時】 2024年3月19日(火) 18:30～20:30

【場 所】 長崎商工会議所 2階ホール

【参加人数】 23名

## 主な内容

### ①岬のエリアの活動紹介

登壇者：中川 進吾氏

（新興善地区連合自治会長／ほこみち長崎未来検討委員会委員）

地域の声として、新興善地区連合自治会長であり、また、ほこみち長崎未来検討委員会委員でもある中川進吾氏より、ほこみちに関する想いを述べていただきました。

登壇者：安元 哲男氏（ながさきのさきプロジェクト）

「岬のエリア」の暮らしや営みなど目に見えない記憶を集めることにより、まちの根底にある魅力を探っていくことを目的として活動されている安元哲男氏より、国道34号周辺の歴史や記憶について説明いただき、ながさきのさきプロジェクトの活動を踏まえたほこみちの活用方法について意見をいただきました。



▲岬のエリアの活動紹介の様子（中川氏）



▲岬のエリアの活動紹介の様子（安元氏）

## ②ワークショップ

テーマ：みんなで国道34号周辺について語ろう

コーディネーター：平山広孝氏、岩本諭氏（ほこみち長崎未来検討委員会委員）

「国道34号周辺のいいところ（資源）、イマイチなところ（課題）、道路等を使ったアイデア」について、各班に分かれて意見交換を行い、その結果を発表しました。

「歴史を感じる石垣や石碑がある」「通りの『抜け感』がある」といった資源の一方、「生活感に乏しい」「目的地が少ない」といった課題が挙げられました。アイデアとして、「日時によって車道⇔歩道が変わる柔軟な活用を」「起業したい人のチャレンジスペースとして」など、ほこみちの活用方法について様々な意見をいただきました。

### ▼主な意見

#### 国道34号周辺のいいところ （資源）

- ・長崎発祥の地であり、歴史を感じる石垣や石碑がある
- ・長崎では少ないまっすぐな通りで、旧県庁もなくなり見通しがよく、『抜け感』がある
- ・長崎の特徴である“坂の町”をまちなかで感じられる場所がある など

#### イマイチなところ（課題）

- ・以前はビジネス街で活気があったが、県庁や市役所が移転し、人通りも少なくなった
- ・目的地となる場所が少ない
- ・石碑は多いがあまり知られておらず、重要度も分からない
- ・ベンチなど休むところがない など

#### 道路等を使ったアイデア

- ・日時によって車道⇔歩道が変わったり、コンセプトが変わるような柔軟な活用
- ・起業したい人のチャレンジスペースとしての活用
- ・本が読めるブック屋台や、カフェ、マルシェなど、滞在できる空間としての活用 など



▲ワークショップの様子



▲各班の発表の様子

今後もワークショップを開催する予定です。どなたでもご参加いただけますので、ぜひご参加ください。

（詳細が決まり次第、長崎河川国道事務所SNS等でお知らせします）

ほこみちの概要や、ほこみち長崎未来検討委員会の詳細についてはこちらをご覧ください。

長崎河川国道事務所ホームページ（ほこみち長崎未来検討委員会）

<https://www.qsr.mlit.go.jp/nagasaki/road/shisaku/hokomichi.html>